

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤としながら、生涯学習の視点に立って、児童の個性を生かし可能性を引き出す教育を推進し、夢や希望をもって持続可能な社会づくりを担い得る、知・徳・体・情操の調和のとれた豊かな人間性を持ち、自ら学び、考え、行動する児童の育成を目指す。

【 かしこく やさしく がんばる 千寿の子 】

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎「千寿プライド」 Well-Being (幸せ) な学校 ・児童が学ぶことを楽しいと思える学校 ・教職員がやりがい、生きがいを感じる学校 ・保護者が安心して子どもをかよわせたい学校 ・地域に愛され、地域と共に成長できる学校
○児童・生徒像	・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」が生まれ、将来の社会を生き抜く力の基礎が育っている児童 ・規範意識があり、協働の精神を持ち、他者を思いやることができる児童 ・自己実現に向かって、最後まであきらめず努力する児童 ・よりよい生活習慣と、健康・体力の保持増進に努める児童
○教師像	・安全、安心に配慮し、「子どもファースト」で児童一人一人を大切にしたい教育を推進する教師 ・研鑽に励み、児童が学びたい質の高い授業を工夫できる教師 ・人権感覚が高く、サービスに対する厳正な態度を持ち、法令を遵守する教師 ・同僚性を大切に、組織人として積極的に協力し成果をあげる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

「おだやかな光と さわやかな風の中で・・・」を基本理念に児童との適度な距離感と「子どもファースト」のアプローチを意識しながら、①ICTの活用を通して「指導の個別化」と「学習の個性化」を推進、②「質」と「実」を意識したSDGsに係る取組、③安全・安心に配慮しながら「コロナ・blank」を解消の3点を柱に教育活動の充実・改善に努めることができた。「学力向上アクションプラン」については、区調査(2～6年)では、通過率が国語 88.0%、算数 87.3%と、目標とした水準を上回り、また、国調査(6年)では、平均正答率の対都平均で国語が+5P、算数が+2Pという結果であった。単元テストの結果からも、単元テストの結果からも、知識及び技能の確実な定着と、思考力・表現力・判断力等、そして、学びに向かう力・人間性等の育成を目指した取組の成果を見て取ることができた。「豊かな心の育成」については、保護者や地域の皆様のご理解とご協力のもと、組織的・計画的な取組を推進することができたが、相談機能や情報共有の一層の充実にも努めていきたい。「体力・運動能力の向上」については、全体的な低下傾向と二極化傾向が顕著であり、運動機会のさらなる確保と質の向上を学校の重点課題として児童一人一人の「スポーツ志向」を確実に高めていきたい。「健康の増進」については、よりよい生活習慣の確立、さらにはその継続に向けて家庭との連携・協働をさらに強化していきたい。特に、朝晩の歯みがき習慣と運動習慣の確立に努めたい。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間(年度) R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8

1	学力向上アクションプラン（3つの資質・能力の育成）	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力・運動能力の向上と健康の増進	○	◎	◎	○	○
4	開かれた教育課程の実行			○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン（3つの資質・能力の育成）
-------------------	---------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
学習の個別最適化と協働性の向上	国語 88.0%、算数 88.0%		自己評価の際に記入	

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1	「思考・判 ベース」の 授業づくり	全学年 全教科・ 領域	各授業 補足的 な取組	言語活動の工夫・改善、I C Tの積極的な活用、主体的・対話的な学習・活用型 学習の充実、「問い」の工 夫、校内研究（算数）の教 育活動全体へのフィード バック。	① 6年国調査 (4月)の 平均正答率 ② 単元テスト の「思考力・ 判断力・表現 力」の観点	① 国・算ともに 都平均を上 回る ② 国・社・算・ 理いずれも 平均 82%以上	自己評価の際に記入		
2	基礎的な 知識・技能 の確実な 定着	第1、2 学年： 国・算、 第3～5 学年： 国・社・ 算・理	各授業 補足的 な取組	S P表分析の活用（特段の 支援が必要な児童と定着 の難しい内容の明確化）、 授業及び補足的な取組に おける指導の個別化・多層 化の推進、A Iドリルの効 果的な活用	① 単元テスト の平均達成 率80%以上 の児童 ② 区調査問題 による定着 度確認（2 月）の通過 率 ③ A Iドリル の活用状況	① 国・社・算・ 理のいずれ も80%以上 ② 国・算ともに 82%以上 ③ 全ての児童 が月平均で 250問A Iド リルを活用 児童1人あ たりの月平 均取組数300 問以上			

3 継続・発展	家庭学習の充実	宿題は全学年 自学自習は第2学年以上	家庭	○全学級での提出状況の記録 ○学力向上委員会による取組状況の確認 ○担当者によるA Iドリルの活用状況の確認	①宿題提出率 ②自学自習の定着率 ③家庭でのA Iドリルの活用頻度	①95%以上 ②95%以上 ③全ての児童が週2回以上のペースでA Iドリルを家庭で活用			
4 継続・発展	本に親しむ機会の充実	全学年 全教科・領域 業前・業間・放課後・家庭	原則毎日	図書館行事の計画的な実施（読書貯金、読書月間・特別貸出、読書感想文コンクール、調べる学習コンクール・図書館ボランティアとの連携、図書館支援員の活用・家庭読書の推進、ノートタブレット休み時間の設定、蔵書の充実	①読書量の目標達成者 ②本を読むことが楽しいと感じている児童	①1年60冊、2年70冊、3学年80冊、4学年3000ページ、5、6年4000ページの達成者90% ②本を読むことが楽しいと感じている児童90%			
5 継続・発展	中学校との接続を意識した英語力の育成	第5、6学年 英語	各授業補足的な取組	教科英語の趣旨を踏まえた4技能をバランスよく育む授業、個別支援の充実、パフォーマンステストの実施、他教科・領域と関連付けた学習	①チェックテスト（年間2回） ②区調査問題を活用した定着度確認（2月） 【6年】	①いずれも達成率80%以上の児童95% ②通過率90%	自己評価の際に記入		
6 継続・発展	I C T の効果的な利活用	全学年 全教科・領域	各授業補足的な取組	足立スタンダードに基づいた問題解決的な授業におけるI C T機器の効果的な利活用。個別指導・補足的学習・家庭学習等でのA Iドリルの計画的活用、協働的な学習場面の充実。	○授業改善に対する児童の評価 ○A Iドリルを週1回ペースで計画的に活用する教員の割合	○「I C Tを使うことで授業が楽しく、わかりやすくなった」と感じている児童95% ○A Iドリルを計画的に活用する教員100%			

重点的な取組事項－2	豊かな心の育成				
-------------------	---------	--	--	--	--

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全ての児童の明るい学校生活の実現	①「学校は楽しい」と感じている児童 95% ②「子供は、楽しく学校に通っている」「教員は、子供の困っていることや悩みなどを理解し、誠実に対応している」への保護者の肯定的な評価 95%	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
実態把握・対応の徹底と児童の自主性・主体性の向上	①いじめとして年間150件以上の案件を認知 ②全校での学校生活の改善に係る児童の主体的な取組を年2回以上 ③全学年とも異年齢との交流を1回以上	「可能な限り児童とともに」の徹底、「いじめアンケート」「WEBQU」の効果的な活用、児童の自主的・主体的な取組の推進、幼保との交流、「いじめ防止・対処授業」の充実	自己評価の際に記入		
基本的な生活習慣の定着	○「教員は、子供にあいさつや、返事をする事、マナー、きまりを守る大切さを教えている」への保護者の肯定的な評価 90%以上	代表委員会を中心とした児童の自主的な取組の充実、保護者・地域との連携	自己評価の際に記入		

重点的な取組事項－3	体力・運動能力の向上と健康の増進				
-------------------	------------------	--	--	--	--

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
習慣の定着と主体性の向上	体力テストで都平均以上の種目 40% 総合評価で AB 評価 30%以上、 DE 評価 35%以下	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

多様な運動機会の場 と内容の充実	①「運動が好き・楽しい」 と感じている児童 95%以上	「体方向上推進プラン」に基 づく継続的な取組と情報提供 の徹底、「動きの洗練性を高め る授業」「協力・協働の意義や 重要性を実感できる授業」の 工夫	自己評価の際に記入
健康な生活習慣の確 立	①早寝・早起き・朝ごは ん・歯みがき・運動習 慣の定着状況が 90% 以上 ②むし歯の保有者が 10 月の段階で 7%以 内・2月の段階で4% 以内 ③1月測定時で肥満度 20以上の児童が7% 以下	生活実態調査の実施（年間2 回）、養護教諭・栄養職員の専 門性を生かした指導の実施、 家庭・関係機関と連携しての 「むし歯ゼロ」の推進。	

重点的な取組事項－4		開かれた教育活動の実行			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校の教育活動の可視化・保護者、地域と 連携した教育活動の充実		学校は、教育活動の様子や情報を伝え ている90%以上 学校は、子どもの多様な学ぶ機会を大 切している90%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
情報発信の充実	・学校だより、学年だよ りを年間11回発行す る。 ・校長ブログ、学校ブロ グを年間計190回以 上更新する。 ・保護者や地域の人が授 業や学校行事を参観す る機会を設けている9 0%以上	・保護者会を年間2回行い、 個人面談を7月と6年生のみ 12月にも実施する。 ・学校行事の後に保護者にア ンケートを取り、充実した教 育活動の一助とする。 ・H&Sにより、情報の共有 を図る。	自己評価の際に記入		

<p>外部人材、地域教材を活用した授業を実施</p>	<p>・全学年で、外部講師を招いたり、地域の教材を利用したりした授業を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・縄跳び名人 ・農家の人 ・パラスポーツ ・昔遊び ・健康教育 ・キャリア教育 ・プログラミング授業 ・郷土資料館の活用 ・PTAとの連携 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自己評価の際に記入</div>		
----------------------------	--	---	---	--	--

6 まとめ

- (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性
- (2) 保護者や地域へのメッセージ
- (3) その他（学校教育活動全般について）